

株式会社新興グランド社

事業内容：スクリーン印刷を中心に、点字やラインストーン印刷などの特殊印刷を展開している。

創業：77年



代表取締役 宮坂 一朗さん

■長寿の秘訣や大切にされている考えなどをお聞かせください。

アイデアを形にするということで、私の座右の銘は『あったらいいな』です。常に“こんなものがあったらいいな”と考え、そのアイデアを今ある自社の設備や技術でいかに形に出来るかを考え続けています。

そこには、今ある物との差別化がしっかり伝わるかという点も大切にしており、そういう視点を持って日々街を歩きながら新しい発想やニーズを探しています。

■「あったらいいな」というお考えでどのような商品が生まれましたか。

一例として、特殊印刷技術を使って生まれた点字絵本があります。

スマホ中心の時代に印刷業が生き残るため、紫外線で硬化するインクを活用した点字印刷技術を開発しました。従来の点字は、裏面から押して表面を出っ張らせる「エンボス点字」という技術が主流でしたが、透明インクを使うことで、文字の上に点字を印刷し、視覚障がい者と健常者の両者が読める“共用品”としての製品を実現させました。

この技術を応用することで出版したものが、点字絵本『しごとってなあに？』です。

きっかけは、「目の見えない母親が、目の見える子どもに読み聞かせをしてあげたい」というエピソードで

した。この話を受け、双方を繋ぐことができるのは“点字絵本”だと考えました。

また、渋沢栄一翁が新一万円札の肖像画になったことを機に、私たちも何か地域貢献できないかという想いが生まれたことや、2024年4月には障害者差別解消法が改正され、障がいのある人への合理的配慮が義務付けられたことも大きなきっかけとなりました。

こうした背景から、渋沢翁の教えである「論語と算盤」の内容を子ども向けにかみ砕いた絵本『しごとってなあに？』に点字を印刷し、点字絵本として出版しました。

この点字絵本は、自社の技術、地元北区での取り組み、そして人との出会いが全て結集して実現した特別な成果だと感じています。

■従業員の方との接し方やマネジメント面でどのような点を大事にされていますか。

答えを持っていても、相手から答えが出るまで言わないこと、そして褒めてあげることを大事にしています。セールスエンジニアリングという考え方のもと、「技術が営業を生む」と捉えており、職人である従業員が持っているノウハウや経験こそが他社との差別化を生み、お客様に選ばれる理由になると思っています。

そのため、自分たちの技術が仕事を呼び込んでいるというプライドを持ってほしいという想いで接しています。そうすると、従業員たちも積極的に自分たちの技術を伝えようと、考えを口にしてくれるようになります。



当社が出版した点字絵本「しごとってなあに？」